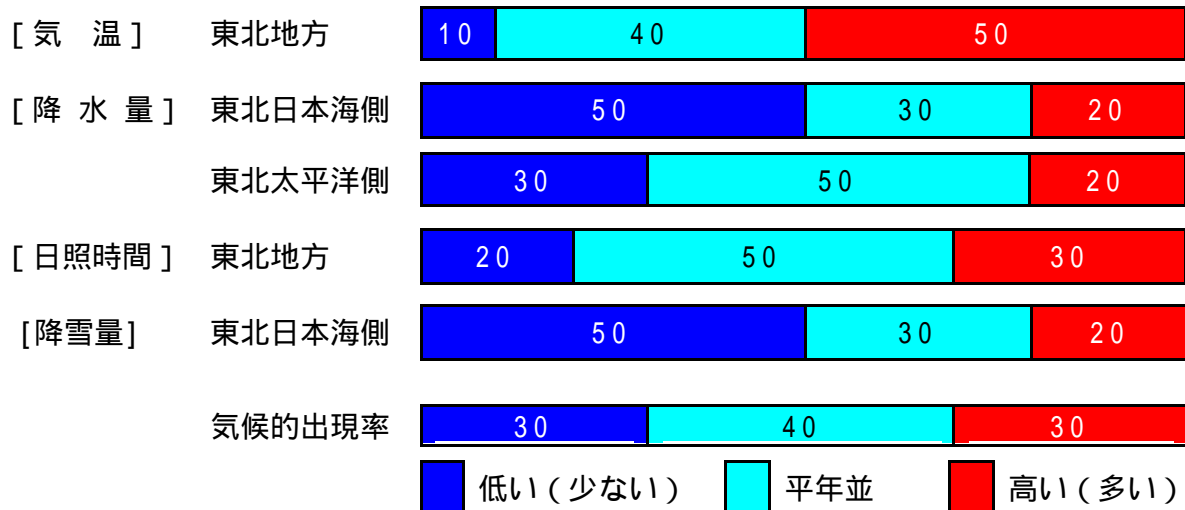


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：2 月 5 日～3 月 4 日）

平成 12 年 2 月 4 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[気 温]：東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 40％です。「低い」の確率は 10％と小さい。

[降 水 量]：東北日本海側は「少ない」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]：東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[降 雪 量]：東北日本海側は「少ない」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、冬型の気圧配置となりますが、平年より弱く暖かい日が多いでしょう。東北日本海側では平年に比べ雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多い見込みです。

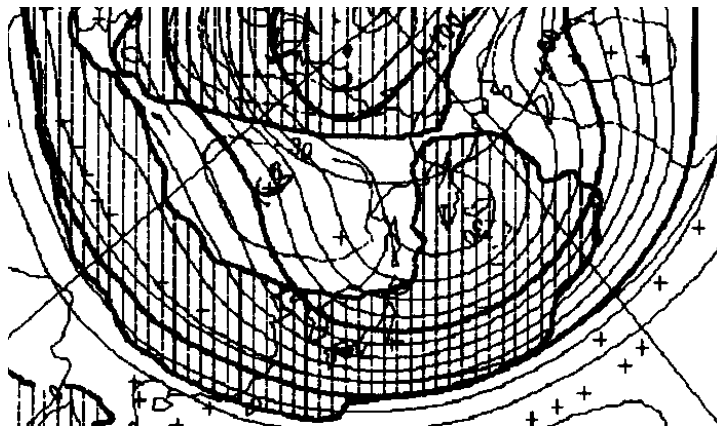
この期間の平均気温は高いでしょう。また、東北日本海側の降雪量は少ない見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 10 日、東北太平洋側で約 20 日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1 週目…………… 向こう一週間は、7 日頃に気圧の谷が通り、期間の中頃は冬型の気圧配置が強まる見込みです。東北日本海側では、雪か雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では、7 日頃天気がかざるのほかは、おおむね晴れる見込みです。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 2 週目…………… 一時寒気が入り冬型の気圧配置が強まりますが、その他の日は概ね弱い冬型の気圧配置となるでしょう。平年同様、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 3～4 週目…………… 冬型の気圧配置となりますが平年より弱く、暖かい日が多いでしょう。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多い見込みです。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 5 日、東北太平洋側で約 9 日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

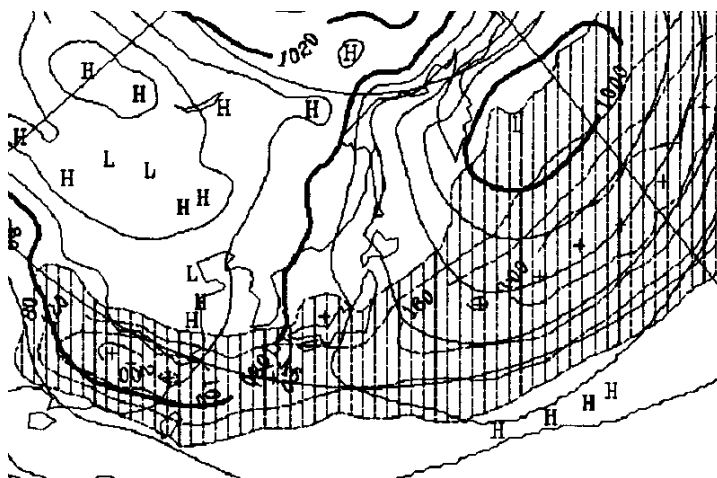


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近から東海上にかけて負偏差に覆われている。バイカル湖付近は気圧の尾根、日本付近は弱い気圧の谷で、西日本、南西諸島を中心に寒気が流れ込みやすい場となる。

週別（図略）では、2 週目に日本付近は強い負偏差に覆われ、西日本を中心に寒気が入りやすい場。3～4 週目には北日本は正偏差に覆われ寒気は入りにくい。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

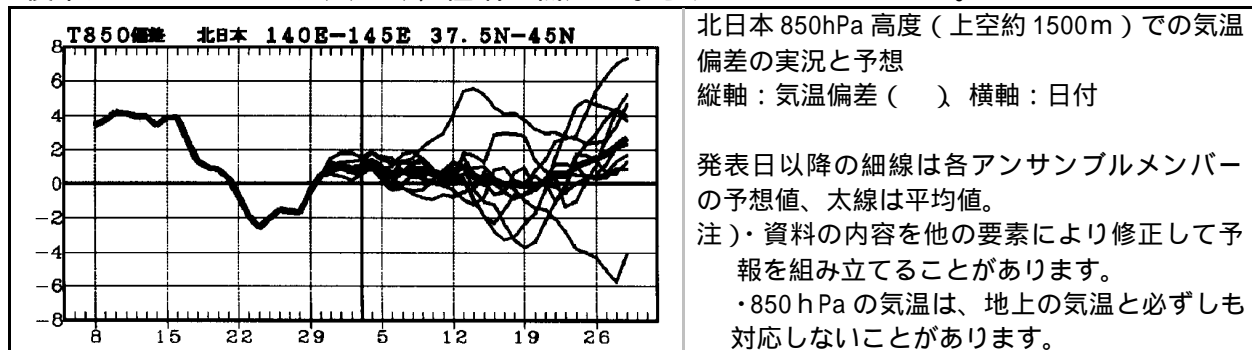
・ 地上気圧と降水量

月平均でみると、西高東低の冬型の気圧配置を示すが、等圧線の間隔は日本付近で広く、冬型は弱い。また、日本の南には降水域が東西に広がり、太平洋側で比較的明瞭であるが、東北地方への影響は小さい。

週別（図略）では、月平均と同様に、冬型の気圧配置となるが、等圧線の間隔は広く、冬型は弱い。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目は正偏差で、2 週目に平年に近づくが、その後 3~4 週目にかけてゆっくり上昇する予想。ただし、2 週目後半からはばらつきが大きく、極端な低温を予想するメンバーもある。

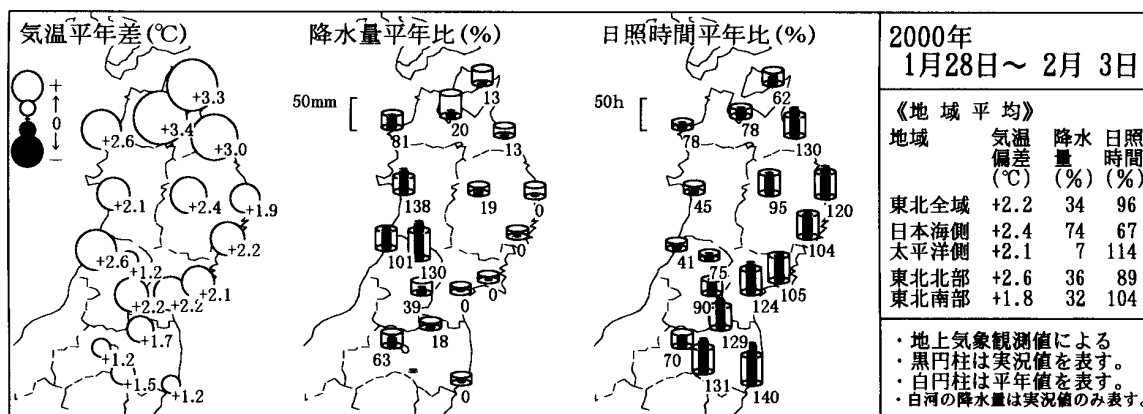


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間（1 月 28 日～2 月 3 日）の天候の経過

この期間、30 日に気圧の谷が通過したほかは、弱い冬型の気圧配置が続いた。このため、東北日本海側では雪となる日が続いたが、東北太平洋側ではおおむね晴れた。

平均気温は、東北地方で平年差+2.2 と平年を上回った。降水量は、東北日本海側で平年比 74%と平年を下回り、東北太平洋側では平年比 7%と平年を大きく下回った。日照時間は、東北日本海側で平年比 67%と平年を下回り、東北太平洋側で平年比 114%と平年を上回った。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）